



サロンあべの

〈サロン・あべの〉12月の出会い

今年の思い出サロンの昼食会

平成24年12月1日(土) 〈サ

ロン・あべの〉12月の出会いは、

「今年の思い出にサロン・あべのの昼食会」と題して、地下鉄

御堂筋線西田辺駅近くのスペイン・イタリアバル+レストラン

「ピエドラ」さんにおいて、サロンの昼食会を開催しました。

参加者は12時30分頃、駅前に集合しました。お店の前に着くと

お祝いの花が飾られていました。

お店の方に聞くと平成24年11月21日で丁度一周年を迎えたそうです。

この日のメニューは、ランチメニューのDランチおすすめコースです。

まず、イベリコ豚の生ハムとピコス(カンパン風)をいただき

きます。生ハムはピコスに巻

たりしました。次に前菜のスモ

ークサーモンのマリネが円形のガラス皿に盛りつけられ運ばれてきます。そしてパスタ料理は、

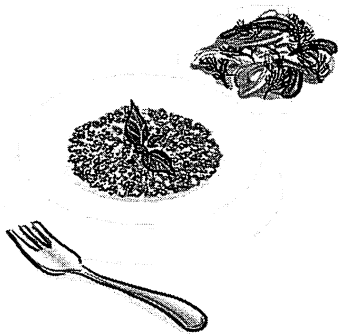
ズワイガニとアサリのパスタです。ピリ辛のトマトソースが食欲をそそります。そして本日の

メイン料理はタラの土鍋風クリームソースです。お魚の身は本

当に柔らかくクリームソースでありながらアサリとのスープで

サッパリとして豊かな味を楽しめました。

お料理が進む中、参加者同士が自己紹介しました。久しぶりの方や初参加の方など、和やかに会話が弾んでいきました。デ



ザートには、アイスクリームと生チョコ、ドリンクにはコーヒのアイス又はホットを選択しました。ミルクの容器が牛の形をしていて、牛の口からミルクを注ぎます。その間にお楽しみくじ引き抽選会を行いました。くじ番号の小さい番号の方からプレゼントを選んでいきます。そして皆さんに今日の感想や今年の思い出を書いていただきました。

この日は師走の初日で気にな

った天気は、冬の寒さが強まった日となり
ましたが、良い天気となりました。身近な
ところに落ち着いた雰囲気のお店で参加者
が料理や会話を堪能し、お腹も心も温まっ
た(サロン・あべの)12月の出会いでした。

(参加者6名 山村貴司)

「今年も思い出・今日の感想」

○待ちに待った一年の最後の好例行事。大
阪・西田辺の長池公園横を少し入った所の
レストラン、バル(BAR)イタリアンで、
コースランチをいただきました。

只今、大東市に10月に居を移し、色々難
問を一人抱えてしまっていました。が、こ
ちらに来るとやはり大阪は良いと思います。
大東市は車イス一つ押して歩くのもやっとな
の道もあり。大阪は、平坦で店も近いし
。

この生ハム、アサリスープ、アサリスパ
ゲティー等、お腹いっぱいになるよりも久
しぶりの再会と、気取らない温かさになっ
た感じが胸いっぱいになりあげてきます。

幸か不幸か今は、野崎観音のふところに
いだかれながら(懐はもう淋しい!!)過ご
しています。今日は来て良かった。人の心

の温かさにふれた一日。ありがとうございます
ました。

磯山 幸枝

○今日は、初めてランチ会に参加して、楽
しかったです。

美味しいイタリアンもいただきました。

また、機会がある時にでも、よろしくおね
がいをします。

興 莉莉(オキ リリ)

○今日は、様々なイタリア料理を食べて良
かったです。日本料理とあまりかわりがな
く食べやすかったです。ポリウムもあり、
私でも満足することができました。

プライベートでは、FX(外国為替証拠金
取引)で5月の暴落で損をしましたが、そ
の後少しずつ利益をだし、とんとんくらい
になりました。来年こそ頑張るぞ!!

加賀谷 正

○西田辺交差点より少し入った静かな一角
におしゃれな雰囲気のレストランがありま
した。コース料理もさることながら、ぶら
下がりの生ハムを眺めたり、テーブルの小

物を楽しんだりしながら、出会いの時間を
ゆったりと過ごしました。今年は、自分自

身の入院があり皆さま方にご心配をおかけ
しました。が、日々体力がもどって来たよ
うに思えます。月日と共に家族の加齢でい
ろいろな事に出会いますが、私には出来る
事しか出来ないわと、気持ちを切り替えて
過ごすことにしました。来年はもう少し前
向きに考えられるようになりたいですね。
今日は、ありがとうございます。

富田 慶子

○一年ぶりに皆様にお会いできました。

今年もおいしいランチをいただきました。
イタリアンは、好物ですがこのお店は、生
ハムやサーモン、デザートが生チョコも本
格的・・・とてもすばらしかったです。

また、来年もお互い元気で、楽しいお食
事を楽しみにしています。 表谷恵美子

○12月に入つての1日、今年もいろんなこ
とがありました。

今日、本当においしいお料理をいただき
ました。参加者の皆さんと楽しい時間を過
ごすことができました。ありがとうございます
ました。

山村 貴司

美智子のこんな話

岸田美智子

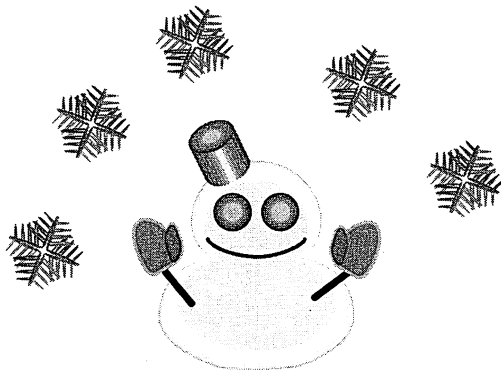
「師走のある日」

クリスマスが近づいたある日の朝、私はいつものようにヘルパーと職場である「住吉区障害者相談支援センター・まいど」に出勤しようとしていました。私はこの日、いつもの時間の電車に乗り遅れそうなので、ヘルパーと駆け足で地下鉄のある駅に急いでいましたが、運悪く赤信号にひっかかってしまいました。もし、この信号を渡った所のエレベーターに乗り遅れたら間に合わないだろうなあと、思いつつ信号待ちをしていました。そして、もうすぐ青になるなあと、思っている、右横から暖かそうな帽子をかぶった多分20代後半くらいの電動車イスに乗った女性障害者の方が、スツとす

り抜けて信号を渡って行きました。そして、その電動車イスの女性は道路の真ん中あたりから、少し言語障害があったのですが、でっかい声で「ちよつと待って!!乗せてくださーい!」と何度も叫んで、エレベーターに先に乗っていかれてしまいました。この駅のエレベーターは電動車イスが1台乗ると、もう1台は無理でした。私は、ちよつと悔しいと感じつつ、また遅刻しそうだから職場に電話をかけなくちゃと、少しへこんで考えていましたが、この電動車イスの女性障害者のスピーディな行動や、自己主張がとってもいいなあと、なぜか思いました。自己主張と言ってしまうのですが、このような光景が地域で障害者が当たり前に暮らせるようになってきた証拠だと、見せつけられたような気がして、私が元氣をもらったような日でした。

その後のことを書くと、私も次のエレベーターに乗り改札に降りると、電車が止まっていてヘルパーが走ってくれて、ギリギリ改札を通り駆け込み乗車で、この電動車イスの女性と同じ電車に乗ることができ、私は職場に遅刻せずに間に合ったのでした。

あわただしい年末年始はヘルパーの時間が足りず、いつも苦勞して落ち込んだりしますが、来年は私も何か新しいことを始めようかと、元氣をもらった1日でした。でも、駆け込み乗車はやめた方がいいですよねー!すみませんでした。



定年まであと十年

私の職場では、いまのところ六十五歳まで働ける。私は今年五十五になるので、あと十年と少しあるわけだ。

いまから十年後を考えると、ちょうど十年前を思い出してみると、それはほんのわずか前だという感じがする。ということは、逆にいえば、あと十年なんてあつと言う間なのだろう。

いまから十一年前に私は博士号を取得し、それからどんどん研究をしようと思っていたのだが、十一年たつて振り返れば、その歩みはわずかだった。そう考えれば、定年退職までがんばっても研究については残念ながら、そう進まないような感じがする。

ただ昔に比べて迷いは少なくなった。あれもしたい、これもしたい、という気持ちが少なくなった。同じ水量でも川幅が広いと流れは遅いが、幅が狭くなれば、流れは速くなる。そんな

ふうに分身の幅を狭くすれば、あと十年でも、これまでの十年よりも遠くまで進めるかもしれないと期待している。

もちろん、あと十年生きていないと、どうにもならないのだが、それはもう神さまに祈るしかない。以前にここに書いたことだが、私の中学時代の友人たちは、すでにずいぶん亡くなっている。平均寿命が長くなつたからといって、自分がその平均に近いはずだと考えることは身勝手だ。

私は学校の教師なので、毎年同じような授業をしているわけだが、それもあと十回しかできないということを考えれば、自然に身が引き締まる思いがする。十回といえば、ロケットの発射台に向かつて言うようなカウントダウンの数字だ。あと一回、あと一回と数えていけばすぐに終わってしまう。

定年を迎えたときの自分の言葉は、もう頭にある。「ああ、とうとうわからなかつたなあ」というものだ。たぶん、そう言うだろうと思う。もつといいことを言いたいのだが、きつと、そうなるだろうという思いが頭に残つて離れない。なんだか死ぬときにも、私は、そんなことを言いたいような気がする。

何が「わからなかつた」かという、それは

非常に多くある。たとえば、パソコンをこんなふうに通つて打っているが、どうして字がこんなふうに出てくるのだろう。これがわからない。たとえば、四年間、どこかの大学の工学部で学べばわかるものなのだろうか。

技術的なことだけではない。源氏物語は、私はたぶん死ぬまで読まないと思う。恋愛モノの読み物は苦手というか興味がないのである。だから日本の誇る文学の最高傑作の素晴らしさを私は理解することなく人生を終えるのだろうか。これがなんとも残念でならない。「興味がない」と言っているながら、こんなことを言うのも変だが、悔しいという気持ちがあるのは本当だ。

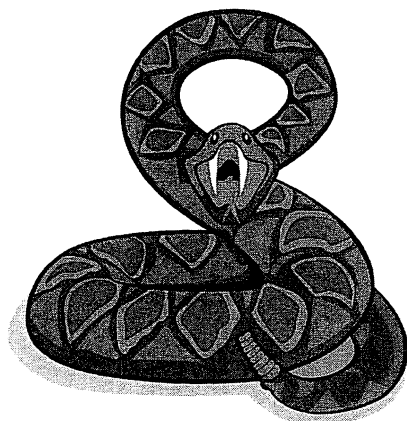
私の研究の専門分野でいえば、背後に膨大な理論があることは気がついた。しかし、それを理解し、使いこなせるようになるまでには時間がかかりそうだ。それまでに定年が来てしまえば、そんな気がする。

そんなふうを考えれば、時は惜しい。まだまだやりたいことは、たくさんある。私のなかでカウントダウンが始まるなか、今年はお正月を迎えていた。

(知)

明けまして

おめでとーございませす



旧年のご支援ご協力を賜りまして
ありがとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。

平成25年正月

〈サロン・あべの〉運営委員一同

晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

■トークショウ

新年早々、いささか旧聞に属するお話で
申し訳ないが、昨年11月「アベノ区民セ
ンター」で女優の室井滋さんと絵本作家の
長谷川義史さんのトークショウ
が開かれた。

室井さんは映画やテレビで活
躍され、沢山の本も主版されて
いる。一方の長谷川さんは、
毎日テレビの「ちんぷいぷい」
に出演され、御自分の描かれた
絵を発表されている。

お二人は某週刊誌に12年間にわたって
室井さんがエッセイを書かれ、長谷川さん
がさし絵を描かれていたそうだ。このよう
に長いお付き合いなのでステージでもすっ
かり意気投合され、お二人のおしゃべりも

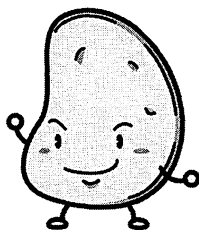
聞いていてとても耳に心地よかった。

余談になるが、室井さんの下のお名前が
「滋」というが、小さい頃はよく男の子に
間違われ嫌だったという。でもお母さんが
「亡くなったお兄ちゃんの名まで生きてほ
しいという意味で『滋』と名付けたんよ」

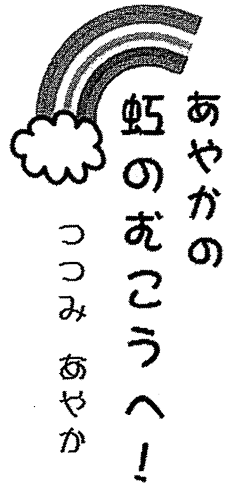
と言われて室井さんは納得し
たという。

長谷川さんはご自作の「じ
ゃがいもポテトくん」の絵を
パネルで見せながら朗読された。

「八百屋に並んでいたじゃが
いもが大勢の人に買われ別々
になる。そのじゃがいもは各



家でコロッケやポテトなどに作られ、明る
る日の弁当に入れて子供たちは学校へ持つ
て行った。お昼に弁当を開くと、形は違
うがじゃがいもは再会して喜び合う」とい
う内容だが、長谷さんの絵は大らかでユー
ラスなのでこちらも温かい気持ちにさせら
れるのである。



憔悴しながらも実家へ

去勢手術を行った後の術後の経過はあまり問題はありませんでしたが、身体の中の環境の変化は激しいものでした。

何しろ、急にホルモンのバランスが百八十度ひっくり返りましたので、本来有り得ない事が起こっていますし、それに加えて、今後、会社へ復職するには、どの様にすれば良いのか？とか、家族への説明をどうすれば良いのか？頭を悩ます事も多く、精神的にもかなり不安定になりました。

それでも、二〇〇九年六月末に、私は実家へ最近の自分の事について説明しに行きました。両親とも体調が良くなく、病院へ入院しており、兄も東京へ出張中との事で、義姉と話をしました。

当日に兄が東京から帰ってくるこの事だったので、ずっと待っておりましたが、仕事の関係で帰りが最終電車になってしまふこの事で、実

家で帰りを待つのを諦めました。

兄の仕事自体も非常に忙しかつた事もあるのですが、だんだんと女性化し、容姿が変わってきている弟の姿を見るだけの精神的な余裕がないと言う事もあったのでしょう。

未だに兄と逢った事ありませんし、今も兄が言っているのですが、頭では理解していても精神的に付いて行く事ができないらしいです。

兄は医学博士で大学ですとガンの研究をしていたのですが、他人のガンの手術については別に何も思わないけど、身内のガンの治療の担当はやりたくないし、勇気もないと漏らしておりました。

仕事柄ガンで苦しみ、死んでいく人々を何人も看取って行った経験上、身内が様々な病で変わり果てて行く事が精神的に非常につらいのだと思います。

私自身も、決して好んで、この様な形で生きて行く事を選んだ訳ではないのですが、この辺りについては時間を掛けて解決していくしかありません。

実家からの帰り、とても精神的に疲れておりましたが、ふと、近所の知り合いの現代芸術家の方のグループが出版している展覧会が大阪港の方で行っていると言う話を聞いていましたの

で、気分転換のつもりで、夕方に少し覗きに行きました。

自閉症の方が描いた文字絵との出会い

展覧会の会場では、その現代芸術家の方のグループの一員で花松れいなさんと言う自閉症の女性が描いた七福神の絵も展示されておりました。

彼女も彼女のお母様も私の事もよくご存知で、親しくお付き合いしておりますが、彼女の作品を目の当たりに見たのは、この時が初めてでした。この絵は、「寿」や「福」等、それぞれの七福神にふさわしいめでたい漢字一文字で、まるでパソコンのプリンターにでも出力したかの様に、一文字一文字が寸分違わない正確な文字で何千字も書かれた文字の上に色々な色で着色され、遠くから見ると七福神の絵に見えると言う作品です。

自閉症の方は、人とのコミュニケーションが取りにくいと言う障がいがありますが、その代わりに並外れた集中力があり、彼女だからこそできる素晴らしい作品でした。

彼女の作品を見た途端に、非常に大きなエネルギーを浴びて、今までの抑うつ状態で苦しんでいた私の心がどんどん楽になったどころか、

それが突き抜けてしまう状態になってしまいました。

ずっと、この絵を見たかったのですが、「もう良いよ。」と言う声がどこから聞こえた様な気がしたので、次の方の作品を見に行きました。

しかし、気分がどんどん爽快になっていく状態がずっと続いて、私の脳みそが暴走している様な危険な感じがしましたので、れいなさんのお母様に思わず尋ねたら、「それは、あなたの心が純粹だからですよ。心配しないで下さいね。」と優しく答えられました。

この妙な気分は、家に帰ってからずっと続き、一睡もできないまま、次の朝がやってきました。

その日は、職場へ休職の継続手続きと、上司との打ち合わせで出社する指定日でもありませんでした。

非常に不安な気持ちで、私は会社へ向かいました。

(つづく)

お知らせ

<サロン・あべの> 2月の出会い

○内容：ふしぎなひも！！

～からくり筒から伸びたり縮んだり～

○お客様：米村金治氏（クラフト作り指導員他）

○日時：2月16日（土）1時～4時

○場所：育徳コミュニティーセンター、研修室

[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

2階、スロープ、車イストイレ有、

TEL06-6621-1901]

○材料費：200円

○問合せ先：TEL・fax06-6691-1028

(富田慶子)



○カンパ、切手、宛名シール、バザー用品等のご寄贈、ありがとうございました。

サロン・あべの毎月の感謝

つくし会、今西美奈子、風智恵子、千葉政子、長島伊津子、表谷恵美子、宮崎徹朗、森芳江、米村金治、山本敏子、山元洋子、その他（敬称略）



2月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」2月の出会い

日時：2月17日(日)午後1時30分～4時
内容：「いろいろな朗読のかたち パート9」
キーワードは「心」、どんな話なのか
ワクワクしてきます。
ゲスト：「こもれび」の皆さん 淀川区朗読ボランティア
グループ
場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
会費：なし
問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「サロンにしよど」2月の出会いは、お休みです。

■「サロンにし」2月の出会い

日時：2月9日(土)1時30分～3時30分
内容：「傾聴」について学ぼう!!
ゲスト：松波幸雄氏(産業カウンセラー)
場所：西区在宅サービスセンター「ながほり」
[大阪市西区新町4-5-14、
TEL06-6539-8075]
会費：なし
問合せ先：TEL090-3949-6973(宮脇淳)

■サロン「アイ」2月の出会い

日時：2月9日(土)1時30分～4時
内容：ふたたびまるちゃん「家族を介護する」
ゲスト：丸尾多重子氏(NPO法人 つどい場さくらちゃ
ん 代表)
参加費：なし
場所：「おかちやま」生野区在宅サービスセンター2階
[大阪市生野区勝山北3-13-20]
問合せ先：生野区社協ボランティアビューロー
TEL06-6712-3101

■「てくてくすみよし」2月の出会い

日時：2月9日(土)
内容：新年会でジャンケンポン!
場所：ラグジャス(難波パークス7F)
問合せと申込み先：山本篤江
TEL06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」2月の出会い

日時：2月3日(日)13時30分～16時
内容：「見えないからこそ見えるつながり」
～願いはかなうをモットーに「やりたい」を
「やる」に変える体当たり人生～
ゲスト：柏木佳子さま
場所：鶴見区民センター3階
[大阪市鶴見区横堤5-3-15]
会費：なし
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
TEL06-6913-7070

■「サロンいたみ」2月の出会いは、お休みです。

<サロン・あべの>Vol.319 発行：平成25年(2013年)1月19日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます